南葵徳川
音楽塾

令和５年度（２０２３年度）開講

南葵音楽文庫 閲覧室からひろがる学びの「和」

徳川頼貞…南葵音楽図書館、館長。彼がその人生を賭して蒐集した重厚な楽譜や書物が壁面を埋め、彼の理想と熱意が世紀を越えて伝わる《閲覧室》。この小さく濃密な空間に集い、南葵音楽文庫が所蔵する［資料について/資料をもとに/資料からひろげて］［音楽を/貴重なコレクションを/南葵徳川の人と歴史を］さまざまな視点や立場から、知り学ぶ塾です。

南葵徳川音楽塾レクチャーのZoom聴講

1回の申込で後期5回のレクチャーすべての視聴が可能です。
申込みフォームに必要事項を入力のうえ送信してください。折り返し、聴講のためのIDとパスワードをお送りします。
申込みフォームは左記のQRコード、または和歌山県立図書館南葵音楽文庫Websiteのリンクから接続して下さい。
＊聴講人数に制限があります（80名まで）。制限人数に達し次第、申込みを締め切ります。
＊アーカイブ配信はありません。
＊Zoomアプリの使用方法および接続に関する技術的な質問には応じられません。

南葵徳川音楽塾

令和５年度（2023年度）後期

南葵音楽文庫閲覧室にて
（和歌山県立図書館1階奥）

受講料無料

＊予告なく内容・講師が変更になる場合があります。
＊閲覧室で使用できる筆記用具は鉛筆のみ。
＊閲覧室入室に際しては所定用紙に記載のうえ、
　入室カードを携行してください（レクチャーのみ）。

お問合せ：073-436-9520

【セミナー申込方法】

セミナーは参加者による演習です。ファシリテーターが進行役を務めます。詳しくは「セミナー参加申込書」（和歌山県立図書館で配布、または当館南葵音楽文庫のWebsiteからダウンロード可能）記載の「セミナーへの参加について」を参照ください。

《メールでのお申込み》

題名に「南葵徳川音楽塾セミナー参加希望」と書き、上記申込書の
　①参加希望日
　②参加者氏名
　③電話番号
を本文中に明記のうえ、
event@lib.wakayama-c.ed.jp
までご送信ください。
※返信メールが受信できるよう設定して下さい。

《来館/FAX/郵便でのお申し込み》

上記参加申込書①～③に加え、
　④参加者の郵便番号、住所、
　⑤メールアドレス(任意)
を記入し、ご来館または下記までご送付ください。
［FAX］**073-436-9511**（和歌山県立図書館）
［郵送］〒641-0051 和歌山市西高松1-7-38
　　和歌山県立図書館サービス課

★各回ごとに定員になり次第受付を締め切ります。
★申込後に参加ができなくなった場合は、
　直ちにその旨ご連絡ねがいます。

レクチャー Lecture

申込不要　15名程度まで
当日10時30分から入室
Zoom による聴講も可（表面参照）

10月7日（土）11:00-11:45

1926年 ヤープ・クンストとの出会い　泉 健

『薈庭樂話』を読んでいると、驚くような記述に出会うことが多い。1926 年の東南アジア旅行の折に、頼貞侯は民族音楽学者のヤープ・クンストと出会っている。今回は「民族音楽学」という学術用語を彼が初めて使用した歴史的背景や、彼が研究したインドネシアのガムラン音楽のことなどを振り返ってみたい。

11月18日（土）11:00-11:45

南葵音楽図書館の蔵書形成（その２）　林淑姫

日本の近代音楽史を彩る南葵音楽図書館の歩みを蔵書形成の観点から検討します。南葵蔵書の形成過程は大きくは2つの時期に分かれます。第1期は徳川頼貞が英国留学から帰国した1916年から1923年頃までの南葵文庫時代で、カミングス文庫を除く一般蔵書の主たる関心は楽譜の収集にありました。楽譜蔵書には同時代の音楽への強い関心が示されています。第2期は南葵文庫崩壊後の南葵音楽図書館時代で音楽書の充実に熱意を傾けた時期です。音楽書には稀覯書が多く含まれ学術性とともに歴史性を強く感じさせます。今回は第1期の楽譜収集における同時代性に着目し、音楽を聴きながら資料を紹介します。

12月10日（日）11:00-11:45

徳川頼貞が見た戦後ヨーロッパ音楽界　美山良夫ほか

1951年、徳川頼貞はパリで開かれるユネスコ総会に出席するため、第二次世界大戦を挟んで20 年ぶりにヨーロッパを訪れました（第4次外遊）。戦争を経て様変わりしたヨーロッパの音楽界に、頼貞は何を見たのでしょうか。彼の晩年の随想の一つ「最近の欧州楽壇を巡りて」を読んで、関連する音楽を聴きます。

1月7日（日）11:00-11:45

徳川頼貞とオルガン さまざまな出会い　美山良夫

山葉の足踏み式オルガンに夢中になった少年は、生涯にわたりこの楽器に関心を持ちます。しかし、当時のオルガン音楽界全体から見れば、彼の体験には偏りもありました。ここでは、彼が接した主なオルガンの特徴を目と耳で体験するとともに、頼貞の時代のオルガン芸術の豊穣を紹介します。

2月17日（土）11:00-11:45

サン=サーンス《白鳥》を聴く～ホルマン、ゴドフスキー、そしてパヴロワ～　近藤秀樹

サン=サーンスの名曲《白鳥》を聴きます。頼貞と交友のあった名チェリスト、ホルマンの録音、来日時に頼貞と歓談の時を持ったゴドフスキによるピアノ独奏用編曲、そして、伝説のバレリーナ、パヴロワが踊るのを頼貞がロンドンで観た、バレエ《瀕死の白鳥》……この珠玉の小品を導き手に「マルキ徳川交遊録」をひもときます

セミナー Seminar

要申込　各日10名以内
受付期間：9月9日～12月24日
（先着順）（延長しました）Zoom参加はできます

12月8日（金）13:30-15:00　**12月9日（土）10:00-11:30**　（両日同内容）

歌詞をきわめる --- ２：《レクイエム》音楽、言葉と葬儀ミサ

モーツァルトをはじめ名曲が多い《レクイエム》。音楽は聴いていても実際の葬儀ミサで、どのように使われているか見聞する機会は稀です。歌詞対訳をもとに、一連の儀式のなかで音楽の使われ方を映像で体験し、歌詞の意味と役割を学ぶ演習です。当文庫が所蔵する『ローマ教会ミサ典書』（1651）を熟覧します。　［ファシリテーター：美山良夫］

1月12日（金）13:30-15:00　**1月13日（土）10:00-11:30**　（両日同内容）

歌詞をきわめる --- 3：ワーグナーの台本から

門外不出であった《パルジファル》の英国初演に接した頼貞だけに、当文庫には興味深いワーグナー関係資料があります。それらを閲覧しつつ、ワーグナー自身が書いた台本―彼の音楽により輻輳される―の素晴らしさを読み取る演習です。《パルジファル》第1幕の対訳をもとに、映像をまじえ理解を深めます。　［ファシリテーター：美山良夫］